

令和4年度第2回会津若松市環境審議会 会議要旨

- 1 日 時 令和5年2月10日（金） 13時30分～15時00分
- 2 場 所 会津若松市追手町第2庁舎 2階 第4会議室
- 3 出席者 委員7名（委員12名のうち5名欠席）
事務局：環境生活課長、環境生活課員3名

令和4年度第2回会津若松市環境審議会

（次第）

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
(1) 会津若松市第3期環境基本計画策定の進捗状況報告
(2) 会津若松市の脱炭素先行地域に関する取組について
- 4 その他
- 5 閉会

■開会（進行：事務局員）

■出席委員確認・事務局紹介・成立宣言

- ・事務局より今審議会の出席委員の名前を読み上げ、出席を確認。
- ・事務局職員紹介。
- ・委員の半数以上が出席していることから、審議会条例第6条第2項に基づき、会議が成立していることを報告。

■会長あいさつ・議長選出

- ・議事に先立ち、左会長よりあいさつ
- ・審議会条例第6条第1項に基づき、左会長を議長に選出
- ・議事に先立ち、会議の公開及び会議録の公開について議長が提案し、委員了承。

■議事

(1) 会津若松市第3期環境基本計画策定の進捗状況報告

- ・配付資料により、事務局（環境生活課員）が説明を行い、質疑応答を行った。

- ・質疑応答の内容

【A委員】

ゼロカーボンシティ会津若松宣言について、会津若松市の環境をどのようにしたいと思っ
て行ったのか、そこが不明確である。会津若松市としてはどういう取り組みをして環境に配
慮したまちづくりをしてくのかという部分を聞かせてもらいたい。

【事務局】

ゼロカーボンシティ会津若松宣言は2050年までの出来るだけ早い時期に温室効果ガスの実
質ゼロを目指すもの。具体的な取り組みとしては省エネ、電化、再エネ、3R+リニューアブル

の4つの方針がある。これらはもともと環境基本計画でも定めていたが、改めて脱炭素の取り組みとして示させていただいた。取り組みは既に始めており、今回定める第3期計画にもこの考え方は生かしていきたいと思っている。

【A委員】

構想はわかるが、実際の市の現状についてアンケートの結果からだけでは見えない部分があるのでは。市民も事業者も一緒になってやれるキャッチフレーズみたいなのがあって、その結果がどうだったとかインパクトのあるデータが出てくれば市民も本気になると思う。SDGsもそうだが、地域課題におおして、みんなで実践すれば、地球環境も良くすることができるんじゃないかと。もう少し見える化して伝えていくことが大事だと思う。稽古堂の古着ボックスなんかも回収した後の流れが見えないし、もっと市民に分かるようにしてほしい。

【事務局】

ご指摘いただいたとおり。今日示させていただいたのはアンケートとワークショップの結果だが、議論の材料として、市の環境の現状については会津若松市の環境として公開はしている。それ以外については、どれぐらい市民に公開してるか、それがどれぐらい認知されているかについてはご指摘の通り難しい状態である。より知っていただく機会は作っていきたい。ゼロカーボン含めて、環境に関する取り組みについては市民、事業者、行政が一体となって取り組みたいので協力してもらいたい。

【B委員】

将来の展望として、いつ、だれが、どこで、なにを、どのようにするかということは具体的に決まっていないのか。

【事務局】

現行の計画でも、取り組むべきこと、やるべきことは示させていただいている。第3期中でもアンケート、ワークショップ、委員の意見でその辺りを決めて示していきたい。

【A委員】

アンケートで太陽光発電、電気自動車についての設問があるが、これは将来的に導入を推進していくという意図があつての項目か。

【事務局】

その通り。市としてはこれらを推進していく立場で、導入した・しない理由から導入の推進施策に努めていきたい。

【A委員】

ゼロカーボンシティ宣言はそういったものを進めていって、ゼロカーボンシティを実現するというのでいいか。

【事務局】

その通り。

【C委員】

今回のアンケートの回答率について、そもそも回答率自体が環境に興味があるかどうかの結果ではないか。そこから入らないと、回答している人は、回答する程度には環境に興味があるので、その時点でバイアスが かかっている。全体の市民の割合は（回答率のとおり）関心しかないと。そういう母集団を見誤ってしまうのではないかと思う。そういう意味では、アンケート結果には意味がない。最初から興味がある人のアンケート結果でしかない。

市がやるべきことは、興味がない人達をなるべく興味がある側に持ってこない、市全体の環境の改善ということには実際のところはつながらないのではないか。こういうアンケートを取る場合のやり方として、今後は10代の方に回答しやすいような、つまり興味があっても無くてもある程度アンケートにアクセスするような方法で。先ほどから質問があったが、そういうテクニカルな部分でなくて、どこにフォーカスを当てて第3期計画を作るのか、その対象がはっきりしないと。市全体を考えるなら、回答しなかった人たちにどうやって浸透させていくのかという目標を考えなければいけないのではないか。そうでなければ、どんなにいい計画でも市民に浸透せず、絵に描いた餅になるのではないか。

また今回の場合で言うと男女でどのように回答が分かれていたのか。またその男女は共働きだったのかという部分もあったほうが良かったのではないか、これからのことを考えるのであれば。そういう人たちは時間がなくて、なかなか参画しづらいだろうし、そういうところをもう少し丁寧に、今の現状、時代にあったアンケートの取り方をした方がもう少し生きたデータ、深く掘り下げられるものが出たのではなからうかというのが印象。

違う集団にアンケートを取れば違う結果が出ると思うので、今回のアンケート結果を代表としていいのかという部分を市の方で意識を持たれたほうがいい。入り口を間違えると違う方向に行ってしまう。

【事務局】

ご指摘の通りだと思う。アンケートもワークショップも関心のある方が参加していたと思う。我々の中でも回答しやすさ等は検討したが、なかなか難しい部分はあった。再度のアンケートは難しいが、関心の薄い人達をどう意識をもっていたか是我々も重要だと考えているので、しっかり対応して参りたい。

【B委員】

ワークショップの資料の中に、若者の起業について書いてあるが、自分が所属する団体で若い人の簡易な企業についての取り組みを行っているが、そういう取り組みについては場所が重要で、廃校利用などを考えている。市では若者の起業についてどのように考えているのか。

【事務局】

若者の起業支援についてはワークショップで出た意見の一つで、環境を守る人が必要ということで、定住案として挙げられたもの。具体的な支援として、会津大学のベンチャーやIT以外でもやってみたい人向けのインキュベーション施設などが考えられる。環境生活課で直接は難しいが、商工部門とは連携していきたい。

(2) 会津若松市の脱炭素先行地域に関する取組について

- ・ 配付資料により、事務局（環境生活課員）が説明を行い、質疑応答を行った。

・ 質疑応答の内容

【B委員】

解決を図っていく主な地域課題に、若年層の転出超過を主原因とする人口減少があるが、会津の未来を考える前に人口減少は止めなければならないと考える。資料には『脱炭素関連の「しごとづくり」』とあるが、この仕事づくりは具体的に行政の方で考えているのか。

【事務局】

この取り組みの中では、再エネ設備の施工や維持管理等の仕事が増え、その結果それに従事する人員が増えることなどを想定している。市内の学校等でも太陽光などの技術の勉強なども行っているのもそちらとの連携なども考えている。

【B委員】

維持管理・施工については特別なライセンスは必要なのか。

【事務局】

詳細は把握していないが、太陽光発電設備に特化した技術などは必要だと思われるので、学校等と連携していきたい。

【B委員】

より具体的な仕事づくりについて、会津には太陽光以外にも利用できるものがたくさんある。会津では空き家が多いが、空き家を解体し、その廃材を利用したモノづくりに移行する、そこに人材を投入するなど、とにかく若い人に魅力ある街づくりをしていかなければならない。会津は店を開くにも家賃が高いという意見をよく聞く。人口流出で人もいない。取り組み可能な小さな間口、入りやすい起業体制を吟味してもらえれば魅力のある街になると思う。

【事務局】

入っていきやすいことは大事だと考える。ただ、技術的な仕事以外にも資料の中では観光振興なども載っている。脱炭素の取組そのものが観光資源となって、教育旅行などの観光で消費が生まれていくこともある。ご意見はあると思うがまずは脱炭素の切り口から考えている。

【D委員】

会津財布について書いてあるが、これは市のデータ連携基盤事業で推進しているものだと思う。今回の計画は今すぐ利用できるものではないようだが、いつ頃使えるものなのか。

【事務局】

スマートレシートの取り組みなどは出来ている。この先は利用者のポイント付与や購買履歴データをデジタル田園都市国家構想に活かすなどの展開は考えられる。ではそれがいつ頃になるかとなると、少し期間は取られると思う。現実的にできない話ではないので、事業者などとも連携している。

【D委員】

5年計画とあったので間に合うのか不安だった。購買データから無駄な買い物やゴミの発生を抑制するという運びであることは資料から分かるが、使えるようにならなければ会津コ

インのポイントといった取り組みもできかねるのでは思って先の質問をした。

【事務局】

今の計画では2025年からの計画と書いているが、できるだけ早く進められればと思う。

■その他

- ・事務局（環境生活課員）より、今後の審議会開催予定や、2月12日に開催される環境フェスティバル特別企画などについて説明

■閉会（事務局）